

「県大見本市」でコンソーシアムを紹介

本学が取り組んでいる「**大地共創**」～大学と地域が一体となって教育・研究活動を進め、地域の人材、文化、生活において新しい価値を創造する～を広く知っていただくため、9月22日に「**県大見本市**」が開催されました。

今年で2回目となる「**県大見本市**」は、地域の企業、団体、自治体、高等学校、高等教育機関等の方々に、「**大地共創**」の具体的な取組を紹介して理解を深めてもらうことによって、本学と地域、地域同士等の交流・連携促進を図ることが目的とされています。今回、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学とて設立した一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムを紹介するブースを出展しました。

3大学がコンソーシアムを設立して進めている「**ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-Beingに貢献する文系DX人材の育成**」の説明に加えて、3大学の具体的な取り組みを紹介したパネルをブースの中央に展示し、コンソーシアムが作成した文系人材にスポットを充てたイメージビデオ、田中学長へのインタビュー映像を来場者向けに上映しました。



山口県立大学 2023 県大見本市 地域交流イベント

県大見本市について

- 地域と連携した教育研究活動の具体的な取組を、関係者の声や写真・動画を見ながら詳しく学ぶ。
- 県大見本市ならではの地域情報や、学生の進路希望など、人々との新たな関わりづくりや連携による地域活性化の取組が盛り込まれています。
- 大学の地域連携推進活動の改善やさらなる発展を促すため、会場のみならず大学側に対するニーズ別に展示も実施します。
- 各大学連携コーディネーターをはじめとする関係者が、会場から大学側へも積極的な情報発信を行います。

事前申込制
一部無料

入場無料

日程 2023.9.22(金)
13:00～16:30(12:00受付開始)

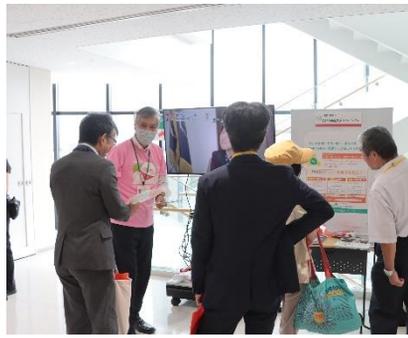
山口県立大学 北キャンパス2号館4階
山口市保原6丁目2番1号

第1部 13:00～14:30 | プレゼン発表 | 地域と連携して行った教育研究活動の具体的な取組を報告します。

第2部 14:30～16:30 | ブース展示 | 大学と山口県内で連携する企業団体、自治体等の関係者や学生・教職員が、展示ブースで情報交換や意見交換を行います。アイデア交換と交流を図ります。新設大学の連携企業・団体の紹介や商品販売も行われます。

主催 学生、教職員、山口県内の企業等
後援 国体、自治体、各高等学校の関係者

お問い合わせ 山口県立大学 地域共生センター
083-928-5622（平日9時～17時） 7753-4502 山口県保原3丁目2-1



ブースでは、本学のSPARC推進室室員に加えて、コンソーシアム事務局（山口大）から2名が駆け付け、来場者に説明を行いました。本学を志望している県内の高校生の姿もあり、現在取り組んでいるSPARC事業に対する関心も高まったのではないかと感じています。

“山口祇園まつり市民総踊り”でSPARC事業をPR



山口市中心商店街で市民総踊りに参加した山口県立大学チーム「SPARC」

新型コロナウイルス感染症のため昨年末で実施が見送られてきた山口祇園祭（7/20～7/27）の中日（7/24）を彩る市民総踊りが4年ぶりに開催されました。

SPARC推進室では、多くの市民が見学する市民総踊りで“SPARC”という言葉を知っていただき、これから本学が文系DX人材を育成する予定であること、また国際文化学部を再編し情報社会学科の設置計画があることをPRしました。

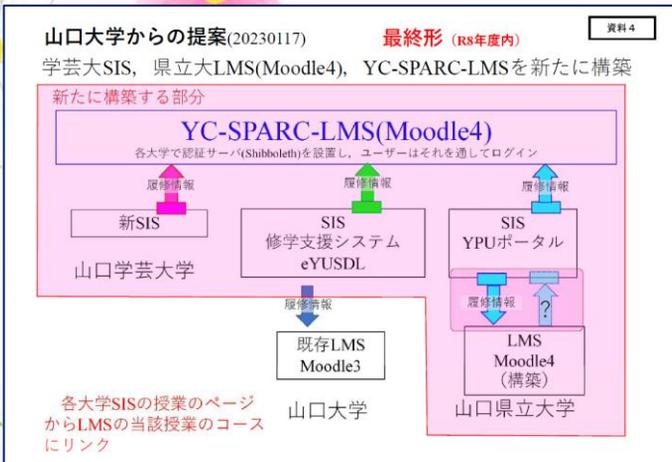
総踊りでは、今年度に入学80周年を記念して作成された山口県立大学公式マスコットキャラクター「わいびよ」をあしらったTシャツを身につけて学生や教職員が参加しました。このTシャツは今後PBLの授業で連携先企業等を訪問する際やPBL合同発表会を行う際に、大学の一体感を醸し出すために着用する予定です。

7月15日（土）、8月6日（日）に開催されたオープンキャンパス来場者に向けて作成したSPARC事業PRのためのうちわ。市民総踊りでも市民に配布しました。



コンソーシアムのタスクフォースチーム紹介 ～LMS構築タスクフォースチーム

3大学のSPARC教育プログラムでは、連携開設科目として「DX概論」「地域学」「データ科学のための基礎数学」など10科目を位置付け、授業の履修者として他大学の学生を登録し、授業への出席管理、小テスト、レポート提出・評価、eラーニングなどを行う必要があります。



これらを管理するSIS（履修・成績管理関係のシステム）、LMS（学習管理システム）が大学間で異なることから、「LMS構築タスクフォースチーム」を設置し、連携開設科目の実施に当たって学習管理をどのように行うか検討を進めてきました。

検討の結果、最終形として3大学共通のLMS（YC-SPARC-LMS(Moodle4)）を連携開設科目用に構築し、各大学で新たに認証サーバー（Shibboleth）を稼働させ、各大学のアカウントでMoodleにログインする形とすることで検討しています。

なお、この最終形は令和8年度内の構築を想定しており、それまでには次の2ステップで進めることとしています。

<第1ステップ> R5年9月まで

3大学用の暫定版SPARC-LMSを設置

本学はYPU-SPARC-LMSから接続

<第2ステップ> R5年度～R8年度

Moodle4をベースとしたYC-SPARC-LMSを開発。

第4回連携教育プログラム委員会（2023.2.16）にタスクフォースチームから報告した資料より抜粋

連携開設科目「地域学/国際文化実践論」の紹介

7月発行の「SPARC推進室ニューズレターVol.5」において、今年度前期に試行した連携開設科目「地域学/国際文化実践論」を受講した山口大学生の声を紹介しました。8月31日の連携教育プログラム委員会において授業評価結果を報告したので、その概要を紹介します。

【授業科目名】山口大：地域学、県立大：国際文化実践論

【本学教員】岩野雅子、井竿富雄、進藤優子、阿部真育、藏田典子、芹澤隆道、東宮史、末本哲雄、木下瞳

【ゲストスピーカー】5名（山口県政策企画課、山口県デジタル政策課、山口市企画経営課、株式会社CGSコーポレーション、株式会社西京銀行）

(1) 受講学生数：山口大27人、県立大66人

(2) 「授業内容を理解できたか」の質問では、「そう思う」が41.8%、「ややそう思う」が45.5%で、理解できた学生は87.3%であった。

(3) 「シラバスに記載された講義のねらいや到達目標を達成したか」の質問では、「そう思う」が34.5%、「ややそう思う」が43.6%で、到達目標を達成したと感じる学生は78.1%であった。

(4) 「授業方法、評価方法等の分かりやすさ、質問、意見に対応できるようコミュニケーションが十分配慮されていたか」の質問では、「そう思う」が60%、「ややそう思う」が34.5%で、合わせて94.5%と高評価であった。

(5) 満足したかどうかの質問では、「そう思う」が45.5%、「ややそう思う」が45.5%で、合わせて91%と高評価であった。

満足した理由として挙げた意見の一部を紹介します。

○様々な分野のゲストスピーカーの話を聞くことが出来、業界の事情についても知ることが出来たから。

○地域課題について考える際にどのような視点を持って考えるべきか、地域課題を解決するために必要なことは何かなど、地域課題について考えることの重要性を学ぶことができたから。また、身近な地域課題に対して、自分達には何ができるのかということを深く考えるきっかけになったから。

○将来県内の市役所で働く地方公務員を目指している私にとって、この授業で学んだ実践的なスキルはどれも有用であるだけでなく、他にもなくこの地域の県庁や市役所、企業のお話を聞いたことはとても貴重な経験になったから。

編集後記

夏季休業も終わって後期がスタートしました。後期の連携開設科目として、山口大学から提供を受ける「DX概論」を国際文化学科の「域学共創ワークショップ」の中で試行します。前期の「地域学/国際文化実践論」は本学からの提供でしたので、後期は逆の形となります。本学の学生が山口大から提供される授業をどのように感じるのか、とても楽しみです。

こうした連携開設科目の試行と並行して、3大学では4つのタスクフォースチームと1つの実施部会を設置して、3大学間の異なる学年歴、授業時間、自然災害時の休講の取り扱い、シラバスの内容、学習管理システムの運用などについて、検討を行っています。ある程度方向性が定まったものについては、今後、お知らせしようと思います。